

## 【成果情報】

### [技術名]

早期多収で省力化が可能なスモモの樹体ジョイント仕立て栽培

### [要約]

スモモの樹体ジョイント仕立て栽培は、優良側枝が確保できるため早期多収が可能である。また、側枝を一定方向に配置するため樹形が直線的となり、人工受粉やせん定等の管理作業時間を慣行の二本主枝栽培より27%短縮できる。

### [場所担当係・センター名]

群馬県農業技術センター・園芸部・果樹係

### [連絡先]

電話 0270-61-0066

### [背景・ねらい]

県内スモモ産地では高樹齢化が進み多くの園で生産性の低下がみられ、改植の必要性が高まってきている。しかし、改植は収量回復に長い年月がかかるため十分進んでいない。

そこで、神奈川県が開発した「ナシの樹体ジョイント仕立て栽培」を応用し、スモモの樹体ジョイント仕立て栽培のための育苗技術、骨格枝の早期確立による早期成園化および直線的樹形を活かした省力化について検討する。

### [技術の内容・特徴]

- 1 樹体ジョイント仕立て用の育苗は、1年生苗木を白黒ポリマルチを被覆した育苗ほ場に、30cm間隔で植え付け、地上部1~1.2mの充実した芽で切り返す。先端1芽を伸長させ、残りは摘心して葉を維持し、全長3.3m以上の2年生苗を育成する(図1)。
- 2 本圃には2年生苗木を3月上旬までに植栽間隔(株間)1.5mで定植し、棚下20~30cmで水平に誘引する。接ぎ木は、主枝の先端を延長方向の同様に水平誘引した隣接樹の主枝基部に行い、連続した直線上主枝を完成させる(図1)。
- 3 樹体ジョイント仕立て栽培の2~4年目の10a換算収量は、初期から優良な側枝が確保できるため慣行の二本主枝栽培と比べ約1.5倍程度の増収となる(図2)。
- 4 樹体ジョイント仕立て栽培の果実品質は果実重、果実糖度、硬度ともに慣行の二本主枝栽培と同程度である(表1)。
- 5 樹体ジョイント仕立て栽培の全作業時間は、慣行の二本主枝栽培と比べ27%短縮できる(図3)。

### [利用上の留意点]

- 1 苗木のかん水はかん水チューブを利用し十分行い、施肥は5月~9月まで月1回化成肥料などを窒素量で2g/樹程度施用する。
- 2 育苗本数が多い場合は、移植労力の低減のため不織布ポット(直径25cm、容量12L)も利用できる。
- 3 目標間隔に苗長が満たない場合は接ぎ木が可能な植栽間隔に定植するか、1.5mに定植後さらに1年間主枝先端部を育成し接ぎ木を行う。
- 4 ジョイント樹はウイロイドなど接木伝染性病害のリスクを考慮し、8~10樹で1ユニットとし各ユニットを連続的に並べてほ場内に配置する。

[具体的データ]

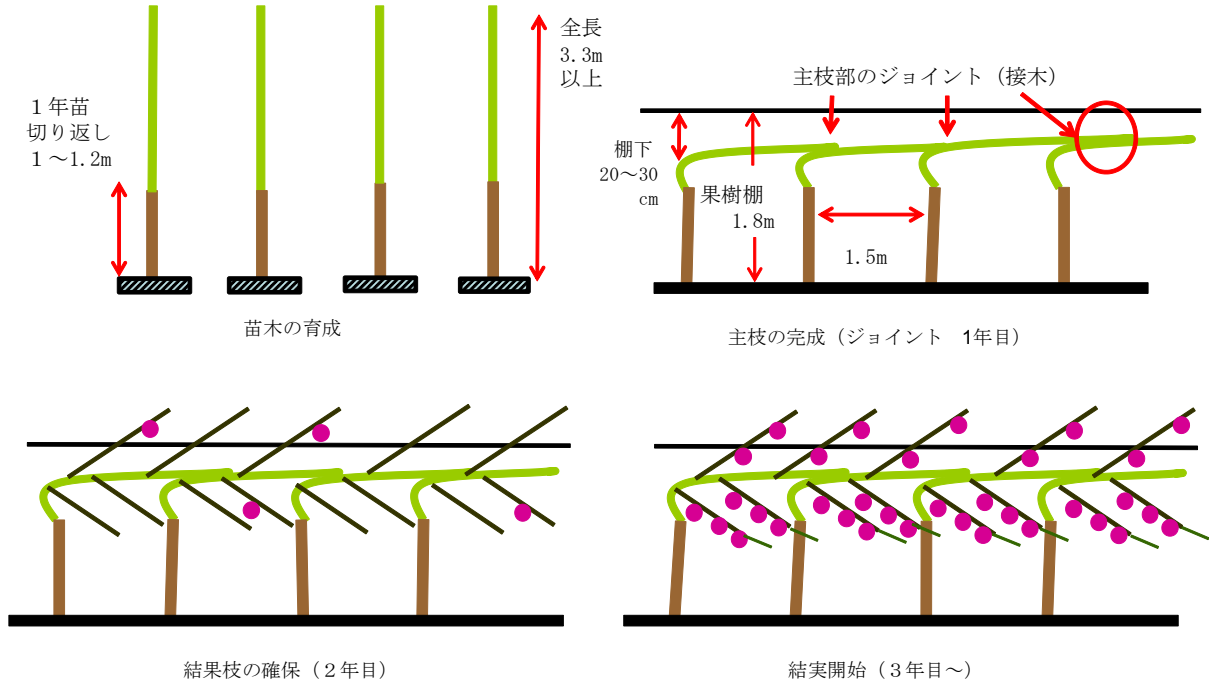


図1 スモモの樹体ジョイント仕立ての概念図

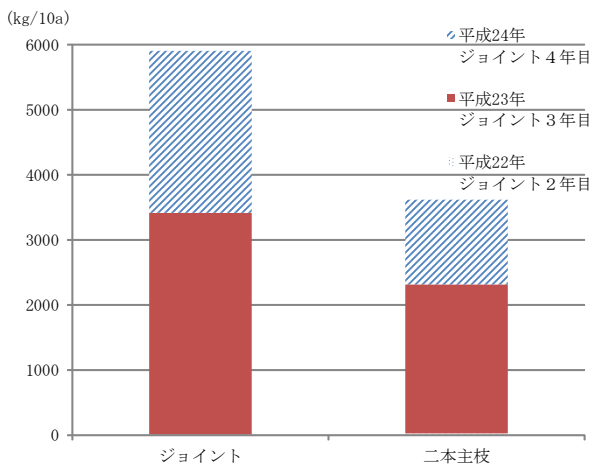


図2 「貴陽」の10a換算収量の推移 (平成22～24年)

注) 収量は樹体ジョイント樹 (1m×9樹) 25ユニット  
二本主枝樹 (4m×5m) 50樹を換算した。

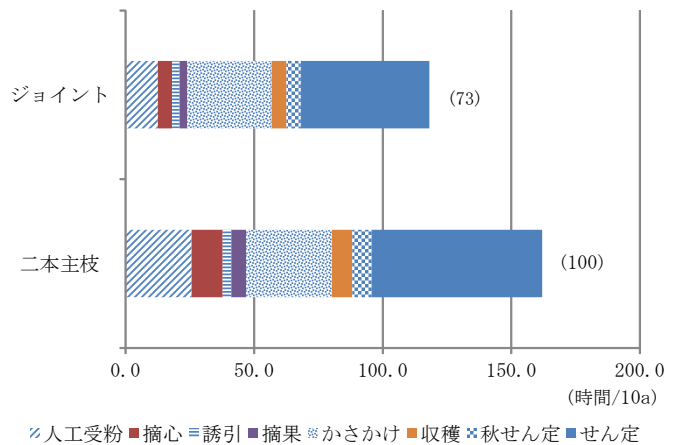


図3 「貴陽」の10a換算の作業時間 (平成24年)

表1 「貴陽」の仕立て法別の果実品質

仕立て法	平成23年			平成24年		
	果実重 (g)	Brix (%)	硬度 (kg)	果実重 (g)	Brix (%)	硬度 (kg)
ジョイント	120	15.0	0.68	152	17.8	0.69
二本主枝	127	14.9	0.70	157	18.5	0.70
有意性 <sup>z</sup>	ns	ns	ns	ns	ns	ns

z: 有意性は t 検定による